



## 小児歯科～歯科衛生士のお仕事



みなさんこんにちは。小児歯科では、歯科医師と歯科衛生士2名が働いています。いつもお子さまやご家族さまが、安心安全に受診できる診療を心がけています。現在は治療よりも虫歯予防に重点を置き、低年齢からの歯磨き指導、歯科衛生士による機械での専門的な歯のクリーニングやフッ素塗布などをおこなっています。歯科での音や振動を体験したり、器具に手を触れたり、安心を確認しながら徐々に恐怖をなくして新しいことができるように少しずつ慣れてもらえるよう工夫しています。はじめは恐怖心で診療チェアにさえ座れなかったお子さまが、定期歯科検診に来られるたびに成長し笑顔で帰られる姿をみると、スタッフ共々感慨深い日々であります。がんばったあとのご褒美シールや折り紙を選ぶことも、楽しみのひとつになっているようです。

歯科外来の各診療室に、口腔外バキュームという機械が設置されています。お子さまのお口元の外側で吸引することによって有害な物質を取り除き、診療室の環境を整えます。治療の時の歯の削りかす、血液や感染のおそれのあるウイルスなど目に見えな

い小さな物質を吸引し、空気中への浮遊を阻止します。感染予防対策には有効な装置として厚生労働省にも導入を推進されています。クリーンで安全な診療環境のために役立つ機械です。

みなさんは、人間の体の中で1番硬い部分はどこかご存知ですか？それは「歯」です。歯の表面を覆っているエナメル質と呼ばれる部分は、水晶と同じくらいの硬さがあります。しかしエナメル質は虫歯菌には弱く、溶かされてしまいます。乳歯の虫歯になりやすい場所は上の前歯、奥歯のかみ合わせの溝、奥歯の歯と歯の間です。虫歯にならないためには、毎日の歯磨きがとても大切です。食べた後は歯磨きを忘れずに、いつも水晶のようにピカピカにしておきましょう。

歯やお口についてお困りのことがございましたら、何でもお気軽にご相談ください。



### Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
  2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
  3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
  4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
  5. 親とこどもが一体となった治療の推進
  6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
  7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
  8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



### 編集後記

COVID-19による影響により自粛生活後「新しい普段の生活」が始まりました。世界中の研究者が治療薬・ワクチン開発に奮闘していますが実用化までには早くて12～18か月程度かかると想定されています。その間にも第2波発生も否めません。手洗い・除菌、マスク装着、ソーシャルディスタンスといった衛生環境維持と共に、心身の健康維持も大切です。「ウィズコロナ」で日常生活を徐々に取り戻して行きましょう。COVID-19の早期終息を願うばかりです。(H.I.)

委員長：貝藤裕史  
副委員長：大津雅秀 松本奈美  
委員：深江登志子 黒田隆二  
林 卓郎 河本和泉  
西澤由美子 井口秀子  
寺田朝子 大原晴子  
奥田早苗 琉 隼人  
時 克志 多々見俊輔  
北浦 泰 辛 浩一

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院  
HYOGO PREFECTURAL  
KOBÉ  
CHILDREN'S  
HOSPITAL

〒650-0047  
神戸市中央区港島南町1丁目6-7  
TEL. 078-945-7300  
FAX. 078-302-1023  
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/  
e-mail:info\_kch@hp.pref.hyogo.jp

02病P2-004A4

# げんき No.70 カエル

兵庫県立こども病院  
ニュースレター



令和2年(2020) 7月29日

## ゲノム医療センターを開設しました

臨床遺伝科 森貞 直哉  
遺伝カウンセラー 洪本 加奈

2020年4月から兵庫県立こども病院内にゲノム医療センターを開設しました。当院を受診される患者様からのさまざまな遺伝相談に診療科横断的に対応することが目的です。医療機関あるいは患者様からの遺伝相談の窓口となっており、4月から遺伝カウンセラーも勤務しています。

当センターでは各診療科とともに以下のような事例に対応します。

1) 先天異常疾患（臨床遺伝科、総合診療科、新生児内科など）

ダウン症候群などの染色体異常、先天性難聴やQT延長症候群、先天代謝異常症などさまざまな遺伝性疾患の診断と治療を行います。カブキ症候群やヤング・シンプソン症候群などの希少疾患の診断や治療、患者会などの情報提供も行っています。原因がわからない遺伝性疾患の方に対しては神戸大学小児科や未診断疾患イニシアチブ(IRUD)と共同で、次世代シーケンサーによる網羅的解析を実施しています。

2) 出生前相談（産科）

同胞が遺伝性疾患であった場合や、高齢妊娠で染色体異常が心配な場合に妊娠前・出生前相談を行っています。遺伝カウンセリングと羊水検査、絨毛検査が中心です。神戸大学と連携し、非侵襲的な母体血を用いた出生前遺伝学的検査(NIPT)もご案内しています。

3) がんゲノム医療（血液腫瘍内科、小児がん医療センター）

がんゲノム医療はがん細胞の遺伝子変異を見つけ、その情報から各患者様に適した治療を提供することが目的です。当院は小児がん拠点病院で、またがんゲノム医療連携病院でもあり、神戸大学などと連携して小児がん患者様へのゲノム医療を提供しています。また網膜芽細胞腫など親から子に遺伝する家族性腫瘍の遺伝カウンセリングも行っています。

4) 遺伝カウンセリング（臨床遺伝科）

上記のほか、さまざまな遺伝相談を行っています。臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーがゆとり時間を取って対応いたしますので、ご遠慮なくお声がけください。



ひろもとかな  
遺伝カウンセラーの洪本加奈です。  
気軽に声を掛けてくださいね。





## 「いつも私の健康を守ってくれて、ありがとう!!」

ふるつか みき  
古塚 泉妃

私は4月から小学5年生になりました。

本が大好きで、家でも学校でも、いろいろなジャンルの本をたくさん読んでいます。私が自分の病気のことを知ったのは、幼稚園に入る時でした。少しびっくりしましたが、お母さんに体のことや手術のことをくわしく教えてもらって、何となく理解できたと思います。手術や入院は全然覚えていませんが、胸に手術のあとがあるので、それを見ると、あ、本当に手術をしたんだな、と思います。でも、いつもは病気のことなんかすっかり忘れて元気になっています。

学校では、みんなの前で気を付けてもらいたいこと(頭を打ってはいけないとか)を、低学年の子たちにも分かりやすく説明しています。思いっきり走ったり、長い間プールに入ることは出来なけれど、なわとびや腹筋が出来るようになったので、とても嬉しいです。

5年生からは家庭科の授業が始まります。私はさいほうも好きなので、いろんな物を手作りしたり、お料理をするのも楽しみです。一番の楽しみは自然学校です。友達とキャンプファイヤーをしたり、ご飯を作って食べたり出来るので、今からうれしくてドキドキしています。

古塚 美穂子(母)

「行ってきまーす!!」と、毎朝元気に学校へ向かう娘を送り出す時、「今日も元気に行ってくれた。良かった」と思わずにはいられません。こんな何気ない普通の光景に幸せを感じられる事が、ただただ嬉しい毎日です。

妊娠8ヶ月に入ろうかという時、先月まで順調だと言われていた検診で「赤ちゃんの心臓の形に異常が見られます」と告げられました。突然の事にびっくりすると同時に、見付けて下さった先生に感謝しつつ、こども病院へ紹介状を持って行ったのが、昨日のことのように思い出されます。

単心室と診断され、生後4ヶ月の時に両方向性グレン手術、1歳半でフォンタン手術をしていただきました。術後はたくさんの器械や管に繋がれ、とても見てられないほど辛いものでしたが、あっという間に回復し、一般病棟に戻る娘の姿に、私も元気と希望をもらう毎日でした。

今まで、先生方や看護師さん、保育士さん…たくさんの方々にお世話になりました。いつも笑顔で励ましていただき、通院中の現在も、お薬や生活についての細かな注意点など、たくさんアドバイスをいただき、とても心強いです。同じ時期に入院していた子たちも、みんな大きくなり、保護者の皆さんとは今でも仲良くさせてもらっています。入院中は、家族の支えはもちろんですが、同じ境遇の母親同士で他愛のない話をしたり、悩みを聞いてもらえたりした事が、私にとって心が休まる時間となりました。

娘は病気を持って生まれてきましたが、これまで多くの方々に愛情をたくさん注いでいただき、ここまで成長する事ができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、娘の成長を楽しみにしながら、家族みんなで仲良く支え合っていきたいと思います。



## 新任幹部職員からのご挨拶



管理局长 種池 寛

4月に管理局长に着任しました種池です。当院は1970年に高度先進医療を提供する小児専門病院として設立され、今年で50年の節目を迎えました。この間、小児・周産期医療の中核病院として発展し、県内外の患者、家族から大きな信頼を得てきた当院で勤務することとなり誠に光栄に思います。微力ではございますが、次の50年、100年に向け、未来を見据えたこども病院の発展のため職員と共に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。



副院長兼  
看護部長 江角 美紀恵

これまで6つの県立病院に勤務し、今回こども病院が7ヶ所目となりました。看護部理念にある「命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供」に向け、より専門的に看護の力を高められるように課題に取り組みます。また、魅力ある働き方を実現するために、常に3C(チャンス! チャレンジ! チェンジ!)道標となれるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



家族支援・地域医療連携部長  
兼小児外科部長 畠山 理

家族支援・地域医療連携部長兼小児外科部長として着任しました畠山理です。当院の基本理念である「高度専門医療」「地域社会との一体」の達成には科内のみならず他科・他職種との連携を含めた「チーム医療」が必須です。こどもを中心として、現在の役割で最大限できることを常に念頭に置いて日々の診療に取り組む所存です。



薬剤部長 合田 泰志

このたび、姫路循環器病センターから異動して参りました。5年ぶりになりますが、以前にお世話になった多くの方々と、新築移転後に再度一緒に働くことができ、大変嬉しく思っています。薬剤師の力を結集し、他部署とも協力して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。



検査技師長 千田 園子

小児専門病院の検査部門として、少ない採血量で検査が出来るよう努力しています。また、当院は小児がん拠点病院およびがんゲノム医療連携病院であり、高い技術能力が求められることから、臨床検査室の認定(ISO15189)取得を目指し整備を進めています。



放射線技師長 岸本 欣也

4月より姫路循環器病センターからこども病院に着任いたしました。当院での勤務は初めてであり、小児の医療については不慣れではありますが、MRIの更新、被ばく線量管理などについて取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。

